

岩手の部活動を支えるPTA



「ヒカリ」あなたの明日を照らす歌声」というテーマで、今年は8月と9月に定期演奏会を開催することが出来ました。演奏旅行やコンクールが中止となり、常に高い目標を持ち切磋琢磨してきた子ども達にとって辛い現実が立ちまわりましたが、先生方をはじめ多くの方のご支援のお陰をもちまして、歌で希望の光をお届けできるようにと演奏会の開催に至りました。

私達父母会も心をひとつにして、幾度となく打合せを行い、O.G.O.B・先輩父母さん方の協力を得、ガイドラインに沿って検温や消毒などあらゆる感染防止策を取りながら、スタッフとして運営にあたりました。

5回の公演、出身中学校の生徒さんとの共演や県民会館での開催、長谷川冴子先生の客演指揮と回を重ねる毎に成長が感じられ、3年生には集大成であり、また新たなスタートでもあったように思いました。

このような状況

未来へつなぐ 定期演奏会を終えて

不来方高等学校 音楽部

父母会長 若松 世津子



「不来方高校女子ハンドボール部」は日本一を目標に活動しています。先輩方は全国大会3位の成績を数度残しており、決勝の舞台まであと一歩が届かず悔しい思いをしてきました。今年はインターハイハンドボール競技が岩手で開催予定となっていましたので、父母会としても目標達成の為に支援して行こうと画策していました。

しかし、新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめ、出場が決まっていた春の全国選抜大会が中止となりました。「夏のインターハイに賭けよう！」気持ちを整理し、部員たちは臨時休校中も各自で毎日5キロ以上ランニング、筋トレも欠かさず頑張りました。しかし感染が拡大を続け、次々とイベントや大会が中止となる中、夏のインターハイも例外ではありませんでした。3年生にとっては集大成の大会が中止に

Challenge Your Limits

不来方高等学校 女子ハンドボール部

父母会長 川村 伸也

況下で開催できなかったのは、校長先生はじめ多くの方のご理解とご支援の賜と深く感謝いたします。何よりも、子ども達を励まし導いてくださいました村松玲子先生をはじめ、顧問の先生方に心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



なり目標を達成する夢は叶いませでした。5月になり先生方や各方面のご協力により県内で交流戦を開催して頂き、更には6月末に盛岡白百合学園高校と引退試合を開催して頂きました。万全の対策を施して試合に臨み、部員たちがコートで、応援で、躍動する姿を最後に目に焼き付けることができ、今まで指導して下さった大沢先生をはじめ、各方面で尽力して下さった方々に感謝します。今年から新たに横断幕に加わった「Challenge Your Limits」を掲げ、今後の活躍を期待します。

地域と学校がパートナー なつて子供の成長を支える 「コミュニティ・スクール」

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課



▲西和賀高校学校運営協議会



▲西和賀高校「いのち輝く百年創造塾」(地域学校協働活動)

県内の県立学校では、四月より西和賀高校がコミュニティ・スクールとなっています。

「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」とは、学校運営協議会という組織を設置している学校のことです。

学校運営協議会は、「地方教育行政法第四十七条の五」に基づき、学校運営に関することについて広い関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に活かし、学校が地域と一体となつて特色ある学校づくりを進める学校の体制です。

学校運営協議会は、「頼もしい学校の応援団」の役割を担う組織であることが期待されています。西和賀高校では、学校評議員を母体に、PTA会長、同窓会長、近隣行政区長、商工会事務局長、町教育委員会事務局学校教育課長、学校職員を加えて、学校運営協議会を組織しています。

全国高P連会長表彰をうけて

全国高P連会長表彰
(団体表彰)

住田高等学校PTA会長

大山 宗徳



この度、私共住田高校PTAは、全国高P連会長表彰を受賞致しました。今回の表彰は、長

年にわたる先輩PTA会員の方々の地道な活動と、関係者各位のご協力があったからこそその表彰であり、皆様方に感謝申し上げます。

私事ですが、昨年度はPTA副会長として活動させて頂きながら、前会長の補

学校運営協議会では、学校運営に関する「基本的な方針の承認」を行い、「学校や教育委員会への意見の申出」、「教職員の任用に関する意見の申出」を行う権限が法律上定められていますが、その会議体の機能を

活かして、多くの学校で「地域学校協働活動」や「学校評価」についても協議が行われています。

大事なことは、学校運営協議会をとおして、学校と地域が目標を共有し、その実現に向け、必要な地域学校協働活動に取り組むということです。

県立学校がコミュニティ・スクールとなることで、学校と企業、団体等が繋がって特色ある学校づくりがより進むようになります。また、生徒にとっては、多様な社会体験や探究的な学びを実現することができるようになります。

県としては、保護者や地域の理解を得ながら、県立学校におけるコミュニティ・スクールの更なる導入を促進していきます。

文部科学大臣表彰を受けて

文部科学大臣表彰
(団体表彰)

伊保内高等学校PTA会長

道地 勇



令和2年度文部科学大臣表彰が決定したという連絡を受けて、大変光栄に思っています。

これらもひとえに、これまで活動してこられた諸先輩、役員の方々、PTA会員、地域の方々のご支援とご協力のおかげと感謝申し上げます。

昨年度から拡大しております、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの方々が大変な思いをされているところです。各学校においても、各種行事なども相次いで中止や延期になっていると聞いております。

そういう本校も今年度当初から入学式は新入生・保護者・教職員のみで実施したり、PTA総会、植栽活動など多くの行事が中止になりました。学校行事では、

を模索しつつ、全国表彰を励みに活動を行っていきたいと思います。



▲PTA総会(令和元年度)



▲住高祭(令和元年度)



▲登校時一声運動・マナーアップ運動



▲気仙地区母親会会員交流会(令和元年度)



▲昨年度PTA総会



▲令和2年度スポーツ大会2日目。母親委員による豚汁提供



▲植栽活動

2年生の修学旅行が中止になったりしました。そのような中での朗報でした。今後も地域の力を借りながら行事を精査して活動を再開したいと思っております。しかし、命第一ですので役員の方々や会員から様々な意見を聞き実行していきたいと思っております。そのような姿を子どもたちに示すことで「こんな親になりたい」「こんな大人になりたい」と思える活動が大切ではないかと考えます。

本校は75名と小規模校ですが、これまで伝えてきた本校の魅力を今後も伝え続けることが出来ればと思っております。

東北地区高P連会長表彰感謝状を受けて

東北大会
感謝状

北上翔南高等学校前PTA会長

折居 進也



この度、東北地区高P連会長表彰感謝状を頂き、誠にありがとうございます。

私は北上翔南高校で、初めてPTA役員を務めさせていただきました。

平成30年度、令和元年度の記念すべき年号が変わる時に、PTA会長を務めさせていただき、令和元年度には北上翔南高校は、創立100周年を迎えました。

この間、平成30年に県高P連では理事、進

路対策副委員長。令和元年に、県高P連副会長、健全育成委員長、東北地区高P連健全育成委員副委員長となり、人と出会い色々な考え方を学ぶ大変貴重な良い経験をする事ができました。

はじめてのことばかりで至らない点も多かったと思います。2年間、役員の方々、先生方のご協力、ご指導をいただきながらやり遂げる事ができた事、心より感謝申し上げます。最後になりますが、今後も微力ながら関わりが持てる事があれば、協力をさせて頂く事をお誓いし、そして、岩手県高P連の更なるご発展を心より祈念申し上げます。

この度は、感謝状、誠にありがとうございます。

東北地区高P連会長表彰感謝状を受けて

東北大会
感謝状

一戸高等学校前PTA会長

柴田 正三



一戸高校では、平成27年度にPTA副会長、平成28年度から4年間、PTA会長を務めさ

方々との出会いが、私の財産となつていきます。今回、感謝状を頂きましたのも、皆様のお陰と感謝いたしております。

PTA会長としては、先生と生徒と保護者と楽しく活動することを常に考え、PTA行事を企画してきました。文化祭での豚汁の提供、PTAと生徒会合同のあいさつ運動や懇談会を実施し、生徒とふれあうことができました。PTA会長退任ということで寂しい気持ちもありますが、今後は同窓生として、母校の生徒を見守りたいと考えております。

最後になりますが、県高P連のますますのご発展を心より祈念申し上げ、受賞の挨拶いたします。

共にした皆さんへ感謝

東北大会
個人表彰

盛岡第四高等学校前PTA会長

大川 雄矢



この度は、東北地区高P連の個人表彰を頂き、誠に有難うございます。

これも、これまでPTA活動を共にした皆さんのお陰だと思います。この場をお借りしまして感謝を申し上げます。

PTA活動を通して、県高P連、盛岡地区高P連の皆さんとも関わる事ができました。皆さんと情報交換する中、少子化による生徒数減少でのPTA活動の在り方は、本校だけでなく皆さん共通の課題である事がわ

かりました。そのような課題を前に、本校ではPTA活動の事業内容の見直しを図っております。どの事業をなくし、どの事業を膨らますか吟味し、生徒数減少、予算減少のこの先も、継続可能な内容になるよう見直ししました。県の会長研修会では本校のそのような取り組みを発表させていただきました、たくさんの気づきと学びがありました。高等学校でのPTA活動の大きな目的は、子どもたちの目標実現を応援する事と、親自身の学びの場でもあると思います。PTA活動がなければ知り合えないような方々と繋がり、私自身も大変勉強になり、成長できたと思います。

あつという間の高校生活です。子どもも親も、良い思い出になる高校時代にしてまいりましょう。

表彰を受けて

東北大会
個人表彰

花北青雲高等学校前PTA会長

吉田 豊



東北地区高P連秋田大会において個人表彰を頂き感激しております。誠にありがとうございます。

この表彰は会員の皆さんを代表し頂いたと思っておりますので、協力して頂いた皆様のお陰です。心より深く感謝申し上げます。

振り返りますと、推薦入学した学校へ、子どもへの応援をする気持ちで、役員決めの際、手を上げた事が、全ての始まりです。

学校に行くと、生徒は「お疲れ様です」と声を掛けてくれ、先生とはフレンドリーな会話を交わし、学校を身近に感じ活動も楽しく進められたと思います。また、校長先生から学校の様子・地域との関わりを直接伺い学校環境を知り、諸課題を学校側と会長が共有することで、学びの場を守る事に繋がると感じていました。

各大会で出会った方々と今でも交流があります。PTAで学んだことを社会の一員として社会へ貢献したいと思っています。

PTA活動がこれからも、皆さんとともに輝き続けますように、五年間ありがとうございました。

第30回会長研修会

令和2年度岩手県高等学校PTA連合会第30回会長研修会が、10月16日盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡本館で開催されました。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防の対策をとり1日のみの開催となりましたが、各高等学校のPTA会長、副会長ら51人が出席。3つの研究協議と教育懇談会が行われました。

それぞれが積極的なコミュニケーションで意見交換をはかり親交を深めるなど充実した研修会となりました。



▲あいさつをする
来賓の佐藤有校長



▲行政説明
片方元昭さん



▲行政説明
小原由香さん



▲研究協議Ⅱの様子

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 主任指導主事 片方元昭さんと、岩手県商工労働観光部定住推進・雇用労働室長 小原由香さん お二方よりお話がありました。

片方さんは「地域と学校の連携・協働の推進」(コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組みを活かして」と題し、直面する課題や今後の方向性、取組内容についてを説明しました。(※詳細は本紙2頁 コミュニティ・スクールについて)

小原さんは「岩手で働きたい」を応援し、岩手県の取組の紹介と題し、県内の若年層の雇用をめぐる動向と課題、その為の取組を紹介しました。

中で小原さんは県内の高校生の四分の三は進学を選択している現状から、まだ先の話だから関係ないと思わずに、出来れば高校卒業までの間に将来の就職先についてや、県内の雇用状況などを知っておいてほしいと話しました。

した。他に、人口減少による地域の担い手問題や情報不足によるミスマッチといった課題にも触れ、岩手県で実施している具体的な取組内容として、いわてで働こう推進協議会などを紹介しました。

研究協議(Ⅱ)では遠野高等学校と二戸高等学校の二校の事例発表がありました。

遠野高校PTA会長の松原希さんは同校の特徴ある様々な活動を紹介し、特にこれまでの女性(母親)会員による学校行事のサポートに加え、男性(父親)会員が得意な分野を活かした新たな形のサポートで「盛り上げる工夫」をするなど、活動に広がりが出たと話しました。また、同校が力を入れる「探究活動」についてPTAとし

てどのようなサポートが出来るのかといった現状の活動にプラスアルファで学校や生徒たちを支援する取組についても紹介しました。

一戸高校PTA会長仁昌寺泰夫さんは登校時の二声運動や文化祭での豚汁提供と展示、スポーツ大会のドリンクコーナーなどを紹介。ただ、今年度はコロナの影響で行事の半数以上が中止となつてしまったことや、例年は保護者が参観する発表会が今年度は校内だけで行われた事などもあり、多くの保護者から発表会のDVDを作れないかとの声が上がりがりコロナ禍でもできる活動としてDVDの作成をした事も紹介しました。

続いて研究協議(Ⅲ)に移り、県高PT連清水成樹会長がコーディネーターを務め情報交換会が行われました。

中でもコロナ禍でのPTA活動は各校関心が高く議論の中心となりました。修学旅行の実施についても情報提供した黒沢尻北高校、大船渡東高校とともに現段階では3年時に延期という事になっていると話し、いずれも複数回にわたり保護者と生徒にアンケートを実施し生徒は行きたい気持ちもあるが、どこかあきらめも漂う状況になつてしまつている状況を説明。それについてはPTA・学校含め周囲の大人が最後まで議論し前向きに進めていくべきではと話しました。また、大船渡東高校もツアー会社も交え保護者説明会を実施するなど具体的な実現に向けて話し合いを続けていると話しました。

他にも多くの活動がコロナにより制限または中止となつた事で余つたPTA会費をどのようにするか、また、研究協議(Ⅰ)のCSの地域連携の話題などから、葛巻高校が地域の特色を活かした山村留学の取組を紹介したりと清水会長が中心となり各校へ情報提供を求め、参加者にとつても限られた時間の中で有意義な情報交換会となりました。

岩手県教育表彰を受けて

遠野高等学校PTA会長
松原 希



本校PTAは、昨年度の全国高等学校PTA連合会全国大会においての団体表彰に続き、本年度は岩手県教育表彰を頂くことができました。改めまして皆様方に感謝と御礼を申し上げます。

今回の受賞は、これまで本校PTA活動に関わつて来たすべての方々が営々と築き上げた実績が実を結んだものであります。また、来年度に創立120周年を迎える我が校にとりまして、とても喜ばしい受賞でありますし、これからのPTA活動の大きな励みとなる榮譽であります。

残念ながら本年度は思うような活動ができておりませんが、今こそ新たな活動ができるチャンスだと前向きに捉え、「保護者と教師が協力し合つて生徒のために活動する」というPTA活動の原点を決して忘れることなく前に進んでまいりたいと思います。



▲文化祭 父親委員による餅撒き



▲体育祭 母親委員会による豚汁お振舞い

つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること

第20回母親会員交流会

9月24日 サンセール盛岡

思春期の子どもと、どうつき合うか



▲盛岡商業高校活動報告

岩手県高等学校PTA連合会の第20回母親会員交流会が9月24日午後1時から盛岡市のサンセール盛岡で開かれました。今年度は新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の影響もあり座席の間隔を空け、時間の短縮と会場の換気をするなど対策をしたうえで開催となりましたが、県内33校から母親会員ら約70人が参加し講演と活動

母親委員長横田恵理さん、前PTA副会長菅原操さんによる事例発表はPTA活動について「PパツとT楽しくA明るい活動」と題し、同校の紹介と活動報告をしました。中でも、盛商のPTA理事は100%「子どもは卒業しても私は

講演の中で佐藤さんは現代の高校生に関する様々な事例やアンケートを基に、思春期の子どもたちの心理状態を読み解き、どのように接すると感情や言葉を引き出しやすいのかスライドで紹介。決めつけ、押し付けは反発を生む、よい関係を築くには親子といえど信頼関係の構築が必要といった基本的な事に加え、あなたを信頼しているよという態度と言葉が必要だと話しました。

開会式に続き「思春期の子どもとどうつき合うか」と題しスクールカウンセラーで前釜石高等学校校長の佐藤一也さんによる講演が行われました。

事例発表が行われました。開会式のあいさつで清水成樹会長はコロナ禍での開催となったことに触れ「コロナを理由に中止したくなかった。我々はコロナに屈しない」という強い意志と「出来ない理由を考えるより出来る理由を考えて絶対に開催したかった。」と話し、参加者や関係者への感謝を伝えました。



▲講演 佐藤一也さん

卒業したくない」というほど楽しく活動しているという言葉があり、その言葉通り、多くの活動で楽しむ為の試行錯誤や活気が伝わる熱い発表となりました。

閉会式のうちつり講評の中で清水会長は「縮小された母親交流会だからこんなもんだよね。ではなく、縮小された母親交流会でもこんなにたくさん皆さんの学びがあったんだと終われる日であった事を願いたい」と今日一日を振り返りました。その後、不來方高校音楽部の定期演奏会へ招かれた際に、演奏はもちろん、様々な感染症対策や開催の工夫とその為の苦労が随所に見られ、とても感動したというエピソードと共に、「Resilience レジリエンス（復元力・回復力）折れない心しなやかな心」という言葉を紹介。「このような世の中で行事や活動の実施などの決断に際し、この言葉の重要性が増していくのではと感じる。やむを得ず中止を決断する時も前向きに最後までチャレンジした結果の中止なのか、そうでないのか。常に出来る方向で考えた結果なのか、他の方法はないのかというの



▲清水会長あいさつ



▲参加者のみなさん

卒業したくない」というほど楽しく活動しているという言葉があり、その言葉通り、多くの活動で楽しむ為の試行錯誤や活気が伝わる熱い発表となりました。



「おはようございます！」
朝の元気なあいさつで気持ちいい1日ははじまる！
「さようなら！おやすみなさい！」
今日に感謝し明日への活力に繋がる！
各校健全育成の大きな柱である登下校時の交通安全見守りや声かけを工夫して行っていることと思います。本年度、岩手は全国高P連と東北地区の健全育成委員も担っており、コロナ禍ではありますが、いち早く前年度からの引継を受け、登下校の交通安全強化とあいさつ・マナーアップ運動を後押ししたいと考えました。全国高P連の助成を活用し、岩手県高P連オリジナルの幟旗を作成しました。全日制高等学校に2本ずつ配布済みです。県内各地でこの幟旗がはためき、交通事故ゼロで登下校時のマナーが向上するよう大いに活用ください！

東北地区高P連健全育成委員会

委員長 清水 成樹

MANNER UP!
あいさつ・交通安全
マナーアップ運動



岩手県高等学校PTA連合会

第50回 事務局長研修会

令和2年11月6日(金)
会場／サンセール盛岡(盛岡市)

令和2年度第50回事務局長研修会が盛岡市のサンセール盛岡で行われました。新型コロナウイルス感染症対策の為に、席を空け時間も例年に比べ短縮しての開催となる中61校から参加。

研究協議と報告・諸連絡が行われ、最後に地区ごとの打ち合わせをし閉会となりました。

〈研究協議〉
「地域と学校の連携・協働の推進」
～コミュニティ・スクールの仕組みを活かして～

岩手県教育委員会生涯学習文化財課
主任指導主事 片方 元昭 氏

急速な社会変化、少子高齢化とそれに伴う生徒数の減少や教職員の働き方改革などがもたらす課題に対し今求められている事や国の動向、課題解決の為にコミュニティ・スクールの制度について解説。また、その役割や、取組事例からどういった成果を期待するのかといった概要もお話し。

質疑応答では、地域と学校をつなぐ役割を期待される参加者の皆さんから不安の声や、運用に対する意見などが挙がり、それらをクリアしていきたいながら無理のない取組についても意見交換が行われました。

最後に県高P連事務局から報告・諸連絡があり、地区ごとの打ち合わせを行いました。議題については事前アンケートで多くあがった新型コロナウイルス感染症に伴う会計処理についてやPTA活動の対応などを中心に活発な意見交換が交わされました。

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を支える安心の寮生活～

【会館施設概要】

- 所在地:〒171-0043 東京都豊島区要町2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、東京外口要町駅 徒歩5分
- 資格:岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人
- 寮費:月額80,000円(朝夕2食)、入寮時費用 10万円
- 室内:洋室13.5㎡(全室個室)
- 設備:机、本棚、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器具等

【申し込み・問い合わせ】

公益財団法人 岩手県学生支援会
(岩手県学生会館内) TEL:03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>



▲参加者の皆さん



▲研究協議



▲打ち合わせの様子

エアコン設置の 要望書について

本連合会では、2年前に県P連と連名で県教育委員会に、県内全ての小・中・高校にエアコンを設置するよう要望書を提出しました。

9月4日付けの岩手日報に、年度当初予算では県南地域の14校への設置予定だったが、国のコロナ対応地方創生臨時交付金が付いたため、大規模校13校を追加し、来夏には半数の33高校で使える見通しが立ち、残る高校にも順次設置する方針であるとの報道がありました。

9月10日の理事会において、「予算は単年度編成なので、速やかに全高校にエアコンを設置するよう、改めて要望書を出してはどうか？」という意見が出され、事務局及び理事会で原案を作成し、会長研修会で承認を得てから、県教育委員会に要望書を提出することになりました。

10月16日の会長研修会において、①2年前の要望に添えてエアコン設置を本格化させた事への御礼。②出来るだけ速やかに全高校にエアコン設置できるよう予算措置をし



③会長研修会参加者全員の総意である。の3点にご賛同いただき、10月21日に教育長に要望書を提出してきました。

がんばる岩手

宮古高等学校 PTA 会長 小林 康弘



一歩、一歩

本校は岩手県沿岸部の中央に位置する宮古市の高校です。全日制(普通科・定時制・通信制)の三課程がある東北で唯一の高校でもあります。

本校の校風の象徴であり、精神的な支柱となっているのが「天行健」です。中国の古典「易経」の中の「天行健 君子以自强不息」という言葉で、人間社会がどうあると、天体(月や星など)の運行は一時も滞ることがない。我々も普遍の真理を求めて自ら進んで励むべきだという教訓です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、本校でも思うようなPTA活動ができていません。例年は、クラスマッチである「オリンピック」では母親委員会の皆さんによる麦茶の提供が行われ、文化祭である「宮高祭」の企画にも参加してきました。しかし今年度は宮高祭が中止になり、オリンピックは感染防止対策を講じた上で実施されましたが、保護者の参加等はできませんでした。そのためPTA会報には多くのオリンピックの記事を掲載し、はつらつとした子ども達の姿を報告させていただきました。

新型コロナウイルスの終息はまだ見えない状況ですが、しかし子ども達は「天行健」の精神で前進しています。PTA会員の皆さんも、東日本大震災、平成28年台風10号、令和元年台風19号と、大きな災害を乗り越えてきた地域の方々です。今までもどおり、ひたむきに子ども達と学校を支えていくように努めていきたいと思います。



岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
小野寺 道
(水沢商業高等学校)

今だからできることを

日頃より健全育成委員会活動にご協力いただき、感謝申し上げます。
全国高等学校PTA連合会では、これまで「バイクの3ない運動（免許を取らない・乗らない・買わない）」を通して、子どもたちの「大切な命」を守ってきましたが、現在は地域の実情や社会情勢の変化に鑑み、各県高P連それぞれが子どもの安全に関する取り組みを展開しております。県高P連健全育成委員会では各学校PTAと連携し、子ど



進路対策委員長
海山 忠
(大船渡東高等学校)

進路決定後その先にあるもの

今年度は、コロナ禍の下、6月に第1回の進路対策委員会に於いて一関第二高等学校の吉田会長より引継ぎし、進路対策委員会のスタートとなりました。

進路対策委員会の活動として、進学、就職と高校卒業後の進路は異なり、各高校の特性や地域においても考え方が異なることから、活動の進め方等が非常に難しい活動となりました。
6月に開催予定の東北高P連進路対策委員会もコロナ禍により中止となり、他県、他校

もの登下校時の様子を見守ると共に、交通事故の「被害者にならない、加害者にさせない」ことを目的として、交通ルールの順守を踏まえた「登校時一声運動・マナーアップ運動」を本年度も推進しております。今年はこの運動の際に使用できる幟旗を作成し県内全高校に配布いたしました。今後の活動として、講師を招いての講話を予定しております。

との情報交換等もなかなか取れない中、第二回の委員会に於いて、講演会を実施するという活動方針を決定したことから、本来であれば事務局校として講演会の講師の調整等を実施しなければならぬのですが、県高P連事務局にご尽力いただき無事に開催することができた運びとなりました。

今年度の講演会では、令和元年度の岩手県母親会交流会でも講師を務めて頂いておりました、Coaching Office代表平野順子氏にご講演を頂き、進路決定に向けた子供への対応、及び進路決定後、入社後の心の変化などにポイントを当てた講話は、私たちが入社したこの状況と大きく変化しているのを感じたところでありました。

親として今どきの子どもの心情や環境の変化などを含め新しい考え方が必要となった事を改めて考え直したところでもあります。
今後もし引き続き進路対策委員会では様々な情報等を提供する活動を推進いたします。



調査広報委員長
坂久保 了
(大野高等学校)

努力する努力

日頃より調査広報委員会活動にご協力頂き、感謝申し上げます。
今年度も例年通り6月の東北高P連第1回調査広報委員会に始まる予定でした。各県の方々と有意義な情報交換が出来るであらうと楽しみにしていましたが、ご存知の通り、新型コロナウイルスの蔓延により、学校教育現場はもとより、我々PTAの活動にまで様々な制限が強いられる事となつてしまいました。
そんな中、6月17日にサンセール盛岡にお



母親委員長
下村 芳恵
(盛岡農業高等学校)

子育て中は勉強中

9月24日、第20回岩手県母親会交流会が開催されました。本年度はコロナ対策もあり、参加人数、時間を削減しての開催と致しました。講師には、スクールカウンセラーの佐藤也先生をお招きし、思春期の子どもと、どうつきあうかについて、講演を頂きました。

先生は、ご自身の子育てや、教師として子ども達と関わってきた経験を混じえてお話くださいました。親もかつては思春期の子どもの関わりを難しく感じてしまいます。

いて第1回合同委員会、第1回調査広報委員会が併せて開催され、前年度の引継ぎを受けながら今年度の取り組みについて、話し合われました。人数制限もあり、白熱した意見交換とまでは行きませんでした。「ポロニア」が出来るまでにやらなければならぬ事が見えてきましたが、委員の皆さん全員と顔を合わせて話し合いが出来た訳ではありませんでしたので私は不安でした。

そんな親の気持ちを汲み取りつつ、子ども達との距離感の大切さや、個人として信頼すること、結果ではなくプロセスを重視することにより良い関係を築くことが出来るかと教えていただきました。また、その時の声のかげ方のポイントとして、リフレーミングした言葉で勇気づけるメッセージを使うと良いとの事でした。いざ我が子で実践！となるとこれがなかなか難しいものですが、家庭のみならず社会でも役立つスキルでありとても勉強になる講演内容でした。

その後、盛岡商業高校にPTA活動について事例発表をしていただきました。活動中の写真も満載で楽しい雰囲気も伝わり、とても参考になる発表でした。

本来であればグループ討議等で各校の交流が盛んに行われる所ですが、今回は残念ながら叶いませんでした。しかし、だからこそ交流会の意義について再認識し、深く活かして行きたいと思えます。

おらほのPTA

仲間とともに 今を主体的に

岩手県立花巻清風支援学校
PTA会長

佐々木 美樹

PTA活動は、研修部・広報部・厚生部の3専門部がそれぞれ事業所見学、会報発行、花壇整備・歓迎迎会を担当しています。今年はコロナ禍のため、親子交流活動（一部実施）地区活動（7地区と病院訪問）、講演会・座談会、PTAバザー、歓迎会の開催を断念しました。今後一日も早くコロナ禍が終息し、活発にPTA活動を再開できることを願っています。



▲PTA花壇整備



▲PTA事業所見学会



地域の誇りと ともに

岩手県立軽米高等学校
PTA会長

中里 将幸

本校は校是「風雪に耐え大いなる未来を拓かん」のもと、生徒と教職員が一体となり、一人一人の将来、進路実現にひたむきに取り組む伝統の学校です。地域連携型中高一貫校として、軽米中学校との連携を充実し、学習指導、生徒会、部活動、キャリア教育などあらゆる面で交流を深め、地域をあげて教育の充実に取り組んでいます。また、町の支援のもと町内外へ本校の魅力発信にも力を入れ、近年では隣接する八戸市などからも入学するなど、地域の期待と誇りを背に地域と共に歩んでいます。



▲中高PTA秋祭り合同参加



▲カレーハウスお母さん



▲PTA研修旅行(盛岡地方裁判所)

本校は校是「風雪に耐え大いなる未来を拓かん」のもと、生徒と教職員が一体となり、一人一人の将来、進路実現にひたむきに取り組む伝統の学校です。地域連携型中高一貫校として、軽米中学校との連携を充実し、学習指導、生徒会、部活動、キャリア教育などあらゆる面で交流を深め、地域をあげて教育の充実に取り組んでいます。また、町の支援のもと町内外へ本校の魅力発信にも力を入れ、近年では隣接する八戸市などからも入学するなど、地域の期待と誇りを背に地域と共に歩んでいます。

地域参画を大切にしており、軽高生の軽米秋祭り参加にあわせ、昨年度初めて中高PTA合同による参加を実施し、PTAによる軽米高校のPRや地域連携も深めています。今年度は、コロナウィルス対策により、例年の活動は中止、縮小していますが、大きな変化の時代にあっても、地域の誇りである軽高生のためにできることを考え活動をしていきます。

◇事務局

屋形場哲也(大野高校)
佐藤 尚(県高P連)
木村 智子(県高P連)

〈編集委員〉調査広報委員会

委員長 坂久保 了(大野高校)
副委員長 細沼 典明(福岡高校)
委員 田村 晶子(平館高校)
馬場 明子(遠野高校)
大内カンナ(宮古商工高校)

(正) 盛岡第三高校音楽部 (誤) 盛岡第二高校音楽部

訂正してお詫言申し上げます。

お詫言と訂正

令和2年7月3日発行 ポローニア第44号3面掲載

(21〜22行目)の盛岡ひがし支援学校PTA「あたらしいPTAの門出」で部表記の誤りがありました。

最後にありますが、この度ご多用のところ皆様のご協力により発行できました「ポローニア」がデジタルアナログ時代に関わらず県内のPTAの繋がりと情報発信のツールに、PTA活動の活性化のアイテムになればと思います。

(調査広報委員長 坂久保 了)

編集後記

連絡先を交換した覚えのない人(全く知らない人)からLINEのメッセージが届くことがたびたびあります。もちろん毎回無視していますが、何処からどうやって情報が漏れているのかと考えると怖くなります。

LINEの他にもメッセージで、荷物を預かっているとかいないとか。

迷惑メールだと分かっているはずなのに、危うくクリックしてしまいそうになります。

電話だけでなくネットや買い物、SNS、ゲームなど色々な事が出来るスマートフォン。便利な反面、使い方を間違えると取り返しがつかなくなる事も。自分の子供達には口うるさく言うものの、私自身安全にスマホを利用出来ているか見直さなければと思います。

昨今のコロナウィルス騒動で生活様式が変わり、ウェブを使つての仕事等も増えています。つい最近、私の所属する商工団体で久しぶりに会員同士の交流会がありました。デジタル全盛期にアナログ全開の交流会でしたが、アナログ時代の私にはとても居心地が良かったです。

最後になりますが、この度ご多用のところ皆様のご協力により発行できました「ポローニア」がデジタルアナログ時代に関わらず県内のPTAの繋がりと情報発信のツールに、PTA活動の活性化のアイテムになればと思います。